

第五十二回全国短歌大会報告

石川美南

第五十二回全国短歌大会が二〇二三年十月二十二日(日)、東京・神田の学士会館で開催された。司会進行は高木佳子氏。

応募者数三五〇名、応募歌数一六九〇首。選者は全作品に目を通し、七月二十八日の選者会議(オンライン)で全国短歌大会賞二作、

現代歌人協会会報 177

朝日新聞社賞一作、学生短歌賞二作を選出した。

全国短歌大会賞の一首、「芋虫月」信号待ちで月の名を教わる 兄は恋をしている

中尾亜由子
については、「月という伝統的なモチーフに新たなものを付け加えた」「兄が効いている。この兄は片思いではないか」といった評が出た。

もう一首の大会賞である、AIが考えた喪主の挨拶を誰かが読んで俺が焼かれる

高橋泰源

には、「自分の最期の場面にAIが介入してくる不思議さと怖さ」「単なる批判ではなく『自分も使ってしまうかも』と思わせるところがうまい」といった評が出た。

式典ではまず、栗木京子理事長が挨拶。ガザ地区での戦闘に触れて「日本の私たちも決して無関心ではられない。その一方で、だからこそ、こうして一堂に会して大好きな短歌について話し合えることの幸せを噛みしめたい」と語った。また、作歌上のアドバイスとして、「短歌は作るだけではなく、批評をすることも大切」と来場者に呼びかけた。

入賞者表彰式では、当日出席した受賞者に栗木理事長から表彰状と副賞が手渡された。全国短歌大会賞の中尾亜由子氏は登壇できた喜びを語り、「一人きりで作品を作りたいと思って短歌を始めたのに、人に会うことがこれほどモチベーションになったことが不思議」といふ。同賞の高橋泰源氏は、「寺の住職をしているので、死者に寄り添いながらも冷静に葬式を執り行う必要がある。それが作品を作る上で良い方に働いたのか

も」と語った。学生短歌賞の暇野鈴氏は作歌歴二年。大学の蜂飼耳ゼミの中で短歌を作っているという。

*選者賞
石川美南選 高松市 樋口淳一郎
あちこちに中心がある冬空に雪ふりだしぬ一斉射撃
梅内美華子選

豊島区 中尾亜由子
「芋虫月」信号待ちで月の名を教わる 兄は恋をしている

豊島区 中尾亜由子
「芋虫月」信号待ちで月の名を教わる 兄は恋をしている

川口市 高橋泰源
AIが考えた喪主の挨拶を誰かが読んで俺が焼かれる

川口市 高橋泰源
AIが考えた喪主の挨拶を誰かが読んで俺が焼かれる

*朝日新聞社賞
大和高田市 藤岡美幸
きみの手のなかにわが手は包まれて群衆となるはつ夏の街

所沢市 佐久間敬喜
落つる水の音真似をする芸人の言葉以前の喋るみづおと

*学生短歌賞

藤沢市 暇野 鈴

後藤由紀恵選 杉並区 奈良岡歩

きみと歩けばきみの話はどこまでも続いていくような高架下

五分おきに今日は晴れかと問う祖母の知りたいきもちに向日葵は咲く

鳥取市 荻原 咲
日が暮れてネットをおろすさつきまで先輩がいた第4コート

岡山市 平尾三枝子
三枝浩樹選 岡山市 平尾三枝子
車窓には瀬戸の島々ながれゆきあと二駅できみに会えるよ

立川市 庄司幸恵
公人選

こんなふうに泣けば気づいてくれるかな電車の窓をながれる雫
藤島秀憲選 掛川市 松浦彩美
新じゃがの水こんこんと湧き出でてひたり吸ひ付く包丁の先

穂村 弘選 富士宮市 金原弓起
地に触れるまぎわで溶ける雪だつたメリーゴーラウンドから名を呼ぶ

吉川宏志選
大和高田市 藤岡美幸
きみの手のなかにわが手は包まれて群衆となるはつ夏の街

